

平成 28 年度 宮城県仙台第二高等学校アメリカ研修報告書

◆五日目 : 7 月 28 日 (木)

時間	報告
07:00	起床
07:45	朝食
09:00	英語クラス
10:30	休憩
10:45	英語クラス
12:15	昼食
13:10	「Dana-Farber Cancer Institute (ダナファーバー癌研究施設)」へ出発
14:00	日本人研究者からの講演と懇談会
18:00	夕食
19:00	イブニング・アクティビティー (※二高生のための特別プログラム)
	ハーバード大学日本人卒業生との懇談会
21:15	翌日以降のスケジュール確認
21:40	終了後、解散／就寝
	<p>【追記】</p> <p>朝 7 時 45 分、本日も全員元気な顔を見せてくれました。スクランブルエッグやベーコン、パンケーキ、フルーツ、野菜など、思い思いに朝食を取り分けると、早々に他国生の隣に。これもいつしか朝の当たり前の光景となっていました。いい意味で肩の力が抜け楽しんでアタックし始めた生徒たち、話題を続けるのにはもちろん変わらず苦戦していますが、前のめりにトライする表情にはいい笑顔が見られます。また、二高生の話を理解しようと顔を向ける他国生の姿、テーブル上には日々変化が見られます。一日一日、何かを変えようともがきながら小さなアクションを重ねています。</p> <p>午前中の英語クラスでは、前日までの撃沈から浮上しようと、日記に書かれた決意や目標のとおり、「自分から」「日本人の輪を出す」「積極的に」「あきらめず」を実践したようです。将来のことや互いの国のこと、共通に興味のある話題について深く話せたことを喜んで伝えてくれた生徒も少なくありません。ある男子生徒は、同世代他国生からお別れのメッセージカードをもらったことを本当に嬉しそうに（喜び過ぎて午後のアクティビティー集合を忘れそうになるほど・・・）話してくれました。また別の女子生徒は、中国人女子生徒と早朝の散歩（大人同伴）をして、親交を深めたことをまぶしい笑顔で話してくれました。</p> <p>午後は、「Dana-Farber Cancer Institute (ダナファーバー癌研究施設)」へ行き、日本人研究者「北島俊輔 氏」からの講演と懇談の時間をいただきました。名古屋大学農学部から京都大学大学院薬学研究科、そして金澤大学での研究活動を経てダナファーバーに。研究者としての道を歩むことを決意された経緯と現在の研究テーマ、そして研究の目的について、今回の講演用にわかりやすく作っていただいたスライドを利用し丁寧に話をいただきました。また、「癌」の認識（発生理由や、そもそも癌とは？）について、あるいは年齢を重ねるごとに高まるリスクの理由について、などグループでのディスカッションも交え、生徒たちの興味、質問をうまく引出していただきながら、インタラクティブな 2 時間のセッションはあっという間に過ぎていきました。</p>

特に印象的であったのは、「好き」を大事にすること、彼自身「生物」への強い興味関心から徹底して「好き」追求してきたことで広がった未来、そして世界トップレベルの同施設にて研究するチャンスを得たことにふれ、子供たちに自分の将来を考える機会を提供いただけました。また、研究者に必要な要素として、当然英語力は言うまでもなく、同時に日本語力（国語）、そして PC と統計学の知識、さらには人と人をつなぐ、あるいはつながりを得るための「コミュニケーション能力」の大切さを訴えていらっしやったことが印象的でした。

夕食後、当初は他国からの学生合同のイブニング・アクティビティーを予定しておりましたが、二高生のための特別プログラムとして、「ハーバード大学日本人卒業生（岡 洋平 氏）」にお越しいただき、質疑を中心に自由なセッションの時間をいただきました。

7 年前、ハーバード大学への日本人入学者数 1 名（※学部生）の記事が話題となりましたが、まさに岡くんがその本人。同大学を卒業後は、専攻分野（コンピュータ・サイエンス）のスキルを活かし、ボストンにあるベンチャー企業で活躍をされています。

小学校高学年までの約 7 年間でアメリカで過ごしたのち、日本（東京）の私立中高一貫校を卒業、高校での模擬国連チャレンジの経験、同大学での高校生向けサマープログラムなどでの体験をきっかけに、ハーバード大学への進学を決意されました。日本とアメリカの大学受験システムと問われるスキルや求められる資質の違い、アメリカへ挑戦した理由、高校時代にすべきことなど、言葉を選び丁寧に、分かり易く説明いただきました。

その後、自由質疑。二高生からの質問が次々と投げかけられましたが、その一つ一つに彼の体験を交えつつ誠実に、時折力強いことばでアドバイスいただきました。礼儀正しく、言葉の端々に感じる思慮深さ、堂々とした姿に生徒は惹きつけられ、予定時間の 1 時間 15 分を大きくオーバーしても質問が止む気配なく、2 時間になるかというところで、打ち切るかたちとなりました。

「先を考えることの大切さ。時間をうまく使うことへの意識。良い仲間を持つことで、互いに高め合う文化」、外国人に対して日本人が劣っているもの（岡君の見解）として挙げながら、高校時代に心がけること、すべきこととして、「とにかく授業での発言、質問（これを言ったら恥ずかしい、、という意識はもたない、自分の世界を狭める）」「自分に制限をかけない」「帰国後、研修で得たことをとにかく友達同士で行動に移す（周囲を変える、影響を与える）」と、アドバイスをいただき、あつという間の時間が過ぎました。

岡くんとセッション同様に、本研修もあつという間に過ぎ、他国生との英語クラス、フィッシャーカレッジでのプログラムも残すところ明日（金曜日）の一日のみとなりました。他国生との交流を通じて、あるいは多くの日本人のゲストとの出会いから、自分自身に向き合い、生徒たちは様々なものが見えてきているようです。見えてきたものを 27 名で共有することも研修の意義と思います。チームとしての力も高め、後半戦はさらにギアを上げて駆け抜けてもらいたいと思います。

以上、本日の報告とさせていただきます。

#### 「ダナファーバー癌研究施設訪問」









《ハーバード大学卒業生との懇談》

